



椿：東温市田窪(愛媛県森の交流センター)



芳春凱喜

謹んで新年のお慶びを
申し上げます
皆様のご健康とご多幸を
心よりお祈り申し上げます
本年もよろしく
お願いいたします

二〇二五年 元旦
愛媛医療センター職員一同



新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

2024年は皆様にとってどのような年だったでしょうか。1月1日の能登半島地震は大きな衝撃でした。まさかお正月、元旦になぜ、という思いでした。甚大な被害をもたらし、現在もその影響が続いています。関係の皆様には心よりお見舞い申し上げます。大雨・台風被害や猛暑など、相変わらず自然は私たちに試練を与え続けています。お城山が崩れることなど考えてもみませんでした。

2023年5月新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に移行し、生活はコロナ前の日常に近づいていると実感しますが、発症する患者さんはまだまだ多く、高齢の方や基礎疾患のある方は重症になるケースがあります。コロナはもう過去のものだと油断していませんか？引き続き手洗い・手指消毒やマスク・咳エチケットを心がけていただきたいと思います。今後、新たな感染症が起きることも想定され、当院では結核病患者の減少に伴い、結核病床を少し減らしてその分、コロナを含む新たな感染症に対応できるように対策しています。とは言え、感染対策はコロナに限らず個人個人が意識を持って行うことが重要です。皆様のご協力をお願いします。

このところ愛媛でも地震が度々あり、南海トラフが現実味を帯びてきました。各医師会でもマニュアルや備蓄などの準備を進めています。当院では2024年11月に、スタッフの少ない休診日に大地震が起きたという想定で防災訓練を行いました。

2025年が皆様にとって穏やかで希望の持てる1年になりますように心よりお祈り申し上げます。当院が引き続き皆様の健康と笑顔を支える存在であり続けるように職員一同努めてまいります。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。末筆ですが、私はこの3月で定年を迎え、当院を退職します。引き続き週1回の外来診療は続ける予定ですが、皆様には長い間大変お世話になりました。心より御礼申しあげます。

令和7年1月1日

院長 阿部 聖裕

地域の輪



ツクイ東温訪問看護ステーション

繋がる地域医療連携

当ステーションは令和4年6月に東温訪問看護ステーションを開設して以降、地域の方々に支えられて順調に成長していきました。

東温訪問看護ステーションは看護師4名、理学療法士1名、作業療法士1名の合計5名のスタッフが在籍しています。経験豊富なベテランが多くとても頼りがいのある事務所となっています。また松山所属の言語聴覚士が定期的に東温にもきてくれており、看護とリハビリ三職種で密に連携し、様々なケースに対して柔軟に対応することができるのが、当ステーションの強みであり特徴だと思っております。

その他、24時間365日対応可能であり、癌の終末期やご高齢の方が最期まで過ごせれるよう、いつでも看護師が対応できることも強みの一つだと考えてます。私たちは、「生きることをかなえる力になりたい」という想いを胸に、日々訪問させていただいています。「本当の課題はなにか、何が解決の糸口になるのか」一つひとつの事象を丁寧に紐解き、最適解を提案するのは得意だと自負しています。

自宅での生活や入院後の生活で「どのように対応すればいいのかわからなくて困っている」というケースがあればお気軽にご相談ください。

これからも地域の皆様と連携を取りながら、多くの方の支えになり地域に貢献していきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。



医心伝心

栄養情報連携のおはなし

栄養情報連携とは、患者さんが医療機関や介護・福祉施設で受けた栄養管理や食事に関する情報が、転院先施設での栄養管理や在宅支援の場面において途切れることなく提供されるための連携のことです。

栄養障害（嚥下障害など）のリスクを来し、医療機関や介護・福祉施設への入退院を繰り返す患者さんは高齢化に伴い増加しており、食物アレルギーなどの特別な食事対応が必要な患者さんもおられます。特に嚥下調整食や食物アレルギー食に関しては、患者さんの生命に関わるものであり、その情報の共有は大変重要です。

医療機関と介護・福祉施設との栄養情報の共有については、



以前から相互に活用できる伝達ツール（栄養サマリーなど）として活用されてきました。2020年度診療報酬改定で栄養情報提供加算として新設され、2024年度改定では対象が拡大し栄養情報連携料として新たに新設されています（栄養情報提供加算は廃止）。

当院では昨年からは、栄養管理情報提供書による情報提供を開始しておりますが、地域の病院との栄養管理の情報共有が少しずつできているように感じています。

これからも栄養管理に関する情報（必要栄養量、摂取栄養量、嚥下食コードを含む食事形態や禁止食品、栄養管理に係る経過など）の共有により、患者さんにとって適切な栄養管理が継続的に行えるよう取り組んでまいります。栄養管理情報に関するご相談がありましたら、お気軽にお声がけください。

栄養管理室長 永野 由香里



英国 オックスフォード訪問記

visit in Oxford England

写真1

8月下旬より英国（オックスフォード）を訪れる機会がありました。帰国後も数年毎に訪れていましたが、コロナ禍により9年ぶりの訪問となりました。久々の訪問で出国前の気分は高揚していましたが、ウクライナ問題でロシア上空を飛ばないため、アラスカ・北極点経由のエコノミーフライトは14時間半を要し、腰痛持ちの私にはまさに修行の様相を呈しました。まず、ロンドン入りし国立病院機構循環器グループの共同演者として3演題を登録したヨーロッパ心臓病学会（現在、世界最大規模の心臓病学会と思われます）に参加しました。

その後、オックスフォード大学を訪問しました。今夏、天皇皇后両陛下が数十年ぶりに訪れたことで紹介されましたのでオックスフォードの町並みを目にした方も多いのではと思います。ハリーポッター・ホグワーツ魔法学校のモデルとなったクライストチャーチに代表される町並みは中世にタイムスリップしたかの錯覚に陥ります（写真1：サウスパークからの風景）。欧米において学問と歴史の中心とされる緑豊かなオックスフォードの街を是非訪れてみてください。



写真2（左端がKarpe教授、右端がFrayn教授）

オックスフォードを訪れる際には、現教授（Prof. Fredrik Karpe）のご自宅にいつも滞在させていただいています。外科専門医の奥様は相変わらず診療業務が多忙なため、初日の夜は現教授の十八番Sweden家庭料理とワインで和やかに過ぎて（酔っ

て）いきました。翌日は私が留学していた際の教授（Prof. Keith N Frayn）のご自宅での昼食会に招かれました（写真2：中庭にて）。今年出版された医学書をお土産として頂きましたが、私が滞在していた約20年前と同様にクロスカントリーを駆け抜け、英国の教科書を書き続けている前教授のライフスタイルと英国紳士としての姿勢に改めて感銘しました。最終日は留学施設（写真3：Oxford Centre for Diabetes, Endocrinology and Metabolism）を訪問し、愛媛医療センター



写真3

で携わっている心臓リハビリテーションに関する意見交換を行いました。帰国後かなりの時間が過ぎた今でも家族のように迎えてくれるオックスフォードの人々の暖かさに感謝するとともに、学んできたことを現在の日常診療に少しでも還元できればと思っています。

特命副院長 船田 淳一

医療安全 管理だより こんなことしています

モニターアラームの適切な対応に向けて

今年度、医療安全部会では院内での生体情報モニター（主に心電図、血中酸素飽和度、以下モニターとします。）に関するアラームの適切な対応に向けて取り組んでいます。

病院に勤務する医療従事者にとってモニターは患者さんの状態を把握する上で重要な役割をしています。アラームは患者さんの状態変化を速やかに教えてくれるものですが、その中には電極外れや電池切れなど使用方法が適切でない場合に発生するアラーム（テクニカルアラーム）も含まれます。このようなアラームが多い環境では、業務の煩雑さが増すだけでなく、アラームに対する危機意識が低下する可能性も考えられます。対応が遅れることで患者さんに与える影響は大きく、そのような事態は避けなければなりません。

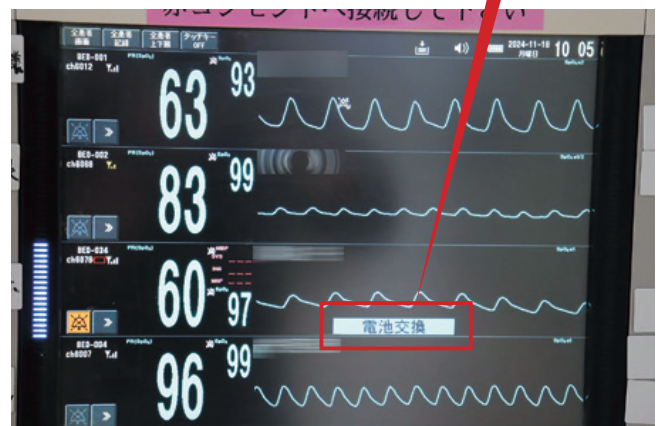
モニターアラームの対応不備によるヒヤリハットを減らせるように医師、看護師、臨床工学技士、事務職で構成した「モニター対応グループ」が病棟ラウンドを通して、患者さんへのモニタリングの必要性の評価や電極貼り替え時期の徹底などマニュアルで決められた内容が定着しているかを確認しています。

また、テクニカルアラームに焦点を当てた内容で研修を開催し、個々がテクニカルアラームについての理解を深め、患者さんの状態変化に迅速に対応するためのモニター管理であることの再確認をしました。さらに、日々の業務の中で使用するモニターが患者さんの状態に合わせたアラーム設定とすることで不要なアラームを減らし、適正に使用できるように努めています。

これからも患者さんの安全を守りながら医療の提供ができるよう努めていきたいと考えています。

手術室 副看護師長 八木 忍

この表示がテクニカルアラーム！



四季燦餐 ～大根の巻～

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

寒さが厳しくなってくるこの時期は、うどんやラーメンといった麺類やお鍋、グラタン、シチュー、おでんなど…。何だかホッとするようなメニューが恋しくなりますね。

最近、コンビニエンスストアでも冬の定番商品となっている「おでん」ですが、中でもダシのよく染みた「大根」は、年齢を問わずファンの方も多いのではないのでしょうか。今回は、そんな人気の食材「大根」についてお話します。

古くは、紀元前2200年の古代エジプトの時代には、今のハツカダイコンに近いものが栽培されていたそうで、ピラミッド建設労働者の食糧とされていたとの栽培記録もあるそうです。その後、ユーラシア大陸の各地へ、そして、弥生時代には日本

にも伝わり、現在では全国各地で110種類以上の品種が栽培されるようになってきました。「大根」という名は、大きな根を意味する大根（おおね）から付けられたようです。

ふろふき大根や煮込み料理、味噌汁などの汁物の具材には勿論ですが、サキ（先端部分）は、汁が少なく辛味もある為、大根おろしなどの薬味としてよく使われます。また、クビ（葉に近い部分）は、汁が多くて甘い為、サラダや刺身のつまにするなど生で食べるメニューがオススメです。

食べたり飲んだりする機会が多くなりがちな時期ですが、大根には、ジアスターゼという成分が含まれており、消化を助けてくれる働きがあります。

年末年始の少し疲れた胃には、やさしい食材ですね。

今年も皆様にとって、よい年となりますように。

ワシは
ふろふきや

おでんに
志願します



その先に見えるもの

東温市ジョブチャレンジ2024

2024年10月24日(木)、『東温市ジョブチャレンジ2024』の一環として、地元重信中学校の2年生5名が当院を訪れ、医療現場の一部を体験しました。

一般の方が入ることのできない、手術室や、臨床検査室を見学したり、リハビリの体験や、薬剤部での調剤体験、放射線科での被爆防護衣の着用など、医療者側からの視点や体験に目を輝かせていました。

今回の体験を機に、一人でも多くの生徒さんが医療者を志してくれたら嬉しく思います。

参加者から、一言ずつ感想を寄せていただきましたので、ご紹介します。



被爆防護衣体験



リハビリ体験



調剤体験



臨床検査室見学



ガウンテクニック体験

手術の最中に横のオペ室に入ったり、手術中の体の中をモニターで見ることができて貴重な体験ができた。

S.Iさん

関係者以外入れない所だったり、普通見ることができない手術とかが見られていい経験になった。

F.Rさん

普段見るような病院ではなく、医療関係者の方が入るところに入るなど貴重な体験をして、医療に興味が湧きました。

Sさん

これから患者として病院に来たとしても、絶対に体験できないような貴重な経験になりました。

O.Hさん

めったに入れない手術室や、白衣を着られてうれしかったです。

Y.Kさん



森本消化器外科医長から手術の説明を受ける

赤いのが見える?

当校は、2024年度で閉校となるため、新カリキュラム運営は1回限りです。だからこそ、最初で最後のアニバーサリー年度に卒業予定の第21期生に対し、学外授業2科目（「看護の統合と実践Ⅲ」「災害看護Ⅱ」）と教科外活動（教育研修として中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会の聴講）とを組み合わせ、豪華な1泊2日（9月6、7日）での研修を行いました。今回は、「看護の統合と実践Ⅲ」の学外授業についてご紹介します。

この科目では、地域共生社会の実現のための取り組みを知ることを目的に、「特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷」の施設見学を行いました。淡路ふくろうの郷は、ろうあ者・盲ろう者の方々への人としての尊厳、コミュニケーション、人権を大切にされた特別養護老人ホームです。

事務長さんや看護師長さんからの講義後、施設内を見学した学生は、展示されている多くの作品に感銘し「人権が無視され十分な教育が受けられなかった視聴覚障害者が、この施設に入所され文字を学び、働き、主体性と個人を尊重した暮

らしができ、個性ある作品を展示することで障害に負けない一人ひとりの熱い想いを訴えているように感じた」と、作品から入所者さんの感情を読みとっていました。

残念ながら新型コロナ感染症の影響により、入所者さんとの交流は叶いませんでしたが、このような施設の必要性や取り組みを、今後看護者として携わる者として、アピールすることが必要だと語る学生の思いに胸が熱くなりました。受け入れていただいた、淡路ふくろうの郷の皆様にも深く感謝したいと思います。

教員 佐伯 香織



淡路ふくろうの郷前で記念撮影

ちよつと言い放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

院内の雑草と格闘するようになって、数年が経つ。当初は市販の刈り払い機で対応していたのだが、何しろ投入できる人員がいないう。そこで導入されたのが乗用草刈り機。

耕運機ベースの車体にクローラーを履かせ、車体前部に取り付けた三十六枚の鉄のナイフを回転させながら、「刈る」というよりは「粉碎」しながら進む、文明の利器だ。現在では、すっかりと私専用の機体となり、車体の赤い色とも相まって、「赤い彗星」と呼ぶとか呼ばないとか…。

それでも、無駄に広い敷地内全てには手が回らず、目立つ部分だけとなつてはいるのは否めない。何しろ、春から夏にかけての雑草の回復力と言ったら…ゴキブリ並みの繁殖力だ。私はこれを密かに「ワイド・ハラスメント」と呼んでいる。きれいに刈った広場も、ひと月もすれば、密林状態だ。草刈りが完了する日は永遠に訪れないだろう。

雑草とのイタチごっこで日を送りながらも、密かな楽しみもある。通常の生活を送っていれば、クローラーを履いた車両を操縦する機会など先ず無い。がしかし、私はその機会に恵まれたわけだ。クラッチを切って信地旋回をす

るときなど、気分はもう映画の登場人物。「戦略大作戦」のD・サザランド扮するオッドボール軍曹か、あるいは「フューリー」のB・ピット扮するウオーダディー軍曹か…草刈り機を駆って躍進しつつ、「パルツァー フォー」とアニメ、ガールズ&パンツァーの名台詞を口にすることも忘れない。

ぶつちやけて言えば、アホなことでもやってないと、雑草軍団と対峙などできないということだ。草刈りと機械のメンテナンスに多くの時間を費やす日々、いっそモウアー軍曹(mowerは草刈り機の意)とでも名乗ろうか、と思う今日この頃。

来院した際、乗用草刈り機に乗っている職員を見かけたら、楽しんで戦車隊ごっこしているなあ、と生暖かい目で見守ってやってください。

樹 懶 菴



歴戦の相棒

外来診療担当医表

現在、当院では外来診察室の工事を行っており、診察場所が変更となる場合があります。
診察場所について、ご不明な点があれば、医事受付窓口までお問い合わせください。

診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前	船田	船田	関谷	岩田	関谷
		午後		堀江	船田		
消化器内科	9診	午前	古田	廣岡	久保	加藤	久保
		午後					
	11診	午前			加藤		
	12診	午前				奥平	
呼吸器内科	10診	午前	阿部	伊東	佐藤	三好	伊東
		午後					田邊
	11診	午前		渡邊		仙波	
		午後					
	8診	午前					山本
		午後	三好				
脳神経内科	8診	午前				尾原	
	12診	午前	尾原	戸井			戸井
		午後	大八木				
整形外科	14診	午前				石川	
	15診	午前	宮本		青木	宮本	
	16診	午前	青木	玉井	石川		玉井
リハビリテーション科	15診	午前		曾我部			曾我部
消化器外科	14診	午前		鈴木	森本		
		午後					石丸
呼吸器外科	14診	午前					湯汲
小児科(神経外来)	14診	午後	菊池		桑原		菊池

専門外来(予約制)		月	火	水	木	金
心臓外科外来	16診					泉谷
ペースメーカー外来	16診				第2・4(午後)	
糖尿病外来	11診					蔭谷(第4)
フットケア外来	小児面談室				第1・3・5	
スキンケア外来	救外		第1・3(午前)			
ペインクリニック	12診			山内(午前)		
じん肺外来	16診					西村(第1午前)
アスベスト外来	14診		午後		午後	
息切れ外来	11診	渡邊(13:30~)				
SAS外来	11診					渡邊(14:00~16:00)
頭痛外来	16診				永井(第2・4午前)	
神経難病	8診			橋本		
鼠径ヘルニア外来	14診		鈴木(午前)			
気胸外来	14診					湯汲(午前)
N T M 外来	8診			第2・4(13:30~15:30)		

※外来受付は8時30分から11時までです。ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。 2025年1月1日現在
※SAS(睡眠時無呼吸症候群)・NTM(抗酸菌症)

独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251
ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解をいただいております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。